

柿 生 文 化

平成22年5月24日  
川崎市立柿生中学校  
柿生郷土史料館 情報・研究誌  
第23号

柿生・岡上の「摘田(つみた)」 古式 稲作法

——なぜ近年まで残っていたのか——

全国的に6月という農村地帯では田植えの光景が見られます。とはいっても最近では、機械化され田植えの光景はずいぶんと見るのが少なくなりました。

田植えは、普通、3・4月頃から苗代(なほ)に種籾(ねほ)をまいて苗を作り、生育した稲の苗をいったん抜いて、水田に均等な間隔を置いて植えかえる作業のことを言います。といえは小学校の頃経験した人もいると思います。

ところが、柿生・岡上では、昔から一部の場所では田植えを行わず4月の下旬から5月の半ば頃にかけて種籾(ねほ)を直接、田に蒔(ま)く方法をとっている地域がありました。地域の方のなかにもご存じの方がいらっしゃると思います。

この方法は、一般的に古い時代になくなってしまったもので「摘田(つみた)」「蒔田(まき)」と呼ばれていました。しかし柿生・岡上では大体、明治時代の終わり頃から大正時代まで続いていたようです。一部1960年頃まで行なっていたところもあります。タイなど東南アジアのいくつかの国では、現在でも田に種籾を直接蒔いている地域もいくつかあるようです。「摘田」は柿生・岡上の全域で行なわれていたようですが川崎市内では多摩区の五反田・菅、宮前区の有馬・土橋・馬絹・平でも行なわれていたという記録があります。もちろん田植えで行なう「植田」も併用して行なっていたようです。歴史的には、「摘田」「蒔田」が古く、古代はこの方法が行なわれていたのでしょうか。しかし平安末期の「鳥獣人物戯画」には、田植え祭りの芸能である「田楽(でんがく)」に関する絵が描かれていますのでこの頃にはすでに「植田」は始まっているものと思います。(次ページに続く)



(室町時代の田植の様子:たわらかさね耕作絵図)



(「摘田」の種蒔き風景:明治時代)



(「年中行事絵巻」にみられる田:平安時代末期)

柿生・岡上の「摘田」＝摘田はなぜ近年まで残っていたか＝  
＝二ヶ領用水はなぜ必要であったか＝



(摘田の種蒔き:青葉区恩田町)

ここでは、「摘田」がどのような条件の土地で行なわれていたのか考えてみます。

江戸時代の様子を「新編武蔵風土記稿」で調べてみると、摘田であった地域の多くが、用水は「天水(雨水のこと)」に頼っていることが多く、あわせて「早損(かんせん:日照りの被害)多き地なり」などと指摘されています。さらに水田があってもそこは低地で窪地が多く逆に水害にあうこともあったようです。収穫量は、「植田」に比べずっと少なく質も悪く年貢米の評価も低かったようです。

記録によりますと上麻生村では、「水田」が多く「植田」が進んでいたのではないかと思います。他の村の多くは水田と畑が半々であったり畑が中心であったようです。ですから畑作を主にして自家用米として比較的簡単な「摘田」が行なわれていたのではないかと想像できます。

この地域では小河川か湧き水等を用水として利用しており、自然の環境をそのまま受け入れなければならなかったわけですが、一方、二ヶ領用水の恩恵をこうむった他の地域では、農耕環境としては大変整ってきます。かつて17世紀前半までは、同じような自然環境があったのではないかと思います。用水完成によりそれまでの「摘田」から「植田」に大きく変化していった地域も多かったに違いありません。

備考	終焉	休日・儀礼	収量	収穫期	除草	株決め	品種	種播				播種肥	元肥	砕土	耕起	水利	直播田	呼称	地区
								蒔落	種量	時期	男女								
上黒川では明治末まで殆ど摘田で作った。片平では1戸当たり3反位摘田をした。フミ桶は5、6升入りの大きさ。	60年前まで(明治時代末)	ツミク正月、焼米を畦に供え、卵の日は摘まない。			一番草は蒔いてから30日目		ススキモチ、サツマ、イッポウセン	反当1斗(1株に12、13粒)	4月20日～5月10日		点播、フミ桶、6株ずつ後退	節でよるった細かい堆肥	手でウワゴエ(干草)を挿込む	アラフコネ(コネマンノード)	アラオコシ(マンノグワ)	湧水	谷戸田(選田、ドブア田)	ツミク	事例52 川崎市麻生区柿生
摘むのは慣れた人でないとできなかつた。雑草が多く出て除草が大変だった。	明治時代の末頃まで	三日正月、一日正月といって播種後に休む	同じ量の種量なら植田より少ない	11月末から12月	二香ゴ、三香ゴをし、落水して田を干す	7月の一番ゴにカブッコセー間引き、播種をして株作り	セカイイチ(梗)ザツコク(糠)	1反1斗2升マキ、1斗5升マキ	5月10日頃		点播、フミ桶(1斗)、後退	細かくしたツクテと灰、金肥を下肥で練り、種を混ぜた。	ダイコドーを入れる				谷戸田、水田が広くひらけたヒロマチの田とも摘田	ツミク	事例53 川崎市麻生区黒川
植田との努力配分にはいいが雑草が多く、収量も少ないので植田に変わった。	大正時代の終わり頃まで				一番ゴ、二香ゴ、三香ゴに追肥をする			1畝1升	5月15日頃		点播、フミ桶、後退しながら	灰と古い下肥	マンノグワでアラフコネ	大きなマンノグワでアラオコシ	湧水	湧き水などで年中水があるドブア田。早く秋のくる田(日当たりなどが悪い田)。	フミク	事例54 川崎市麻生区古沢	

—— 柿生・岡上地名考Ⅱ —— 王禅寺

古刹王禅寺をひかえた由緒ある地

麻生区王禅寺はかつて王禅寺村といわれていました。現在の麻生区王禅寺、王禅寺西、王禅寺東、白山、虹ヶ丘1丁目の一部がはいります。

ご存じのとおり真言宗「王禅寺」があることからその寺名にちなんで付けられた地域です。「新編武蔵風土記稿」(江戸後期、幕府によって編纂された武蔵の国一國の地誌で江戸時代の各地の様子がよくわかる)によると「大変大きな寺で徳川家康が江戸に入国(天正18年:1590年)後、寺号(寺名)をもって村名に名づけられた」あるいは、「柿木をたくさんうえてその実は大変おいしい。江戸で禅寺丸と言う柿はこの産で、もと王禅寺丸と言っていたが略して禅寺という。また、この村でも炭を焼いて余業(本業以外の仕事)としている」と記されています。その後、徳川2代将軍秀忠の奥方である崇源院のお化粧料(化粧の費用をこの地の年貢から出す)の地となるとも記されています。



(禅寺丸柿の原木)

下の王禅寺の字(あざ:柿を小さな区に分けたもの)の図を見て下さい。全体的に「字〇〇谷(やと)」等の地名がたくさん出てきます。これは王禅寺村には地形上たくさんの低湿地があったことを表しています。



(王禅寺の字:あざ)

**化粧面(けしょうめん)**とは先程説明した崇源院のお化粧のための費用に年貢を充てた田のあったところです。

**般若面(はんにやめん)**は、般若とは一般的に仏教や寺院を表す言葉で「面」は「免」の意味で免田(領主年貢を免除された田)のことで王禅寺の維持費にあてることのできた地であったようです。

**光ヶ谷(ひかりがやと)**は孝謙天皇の夢のお告げにより土中から観音像が発見されたことから付けられた地名といわれています

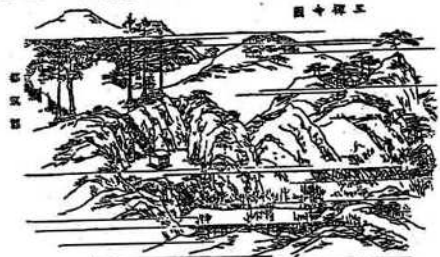
**瓦谷(かわらやと)**は瓦を焼く窯か材料の土を産出したかのいずれかのようにです。

**日光(にっこう)**はよく日が当たるところと

いう意味か、日光の宮大工をやった人が住んでいたという説もあります。

ちょっと変わった字は吹込(ふきこみ・ふきこみ)です山口との境の山を越して北西の強風が吹き込んでくる場所という説がありますが、近くに鑪(くわ)があり鞆(ふろ)のことを指したのではないかと考えられます。全国的にも製鉄に関する地名には、「吹」という地名が多く見られます。

もし、そうだとしたら周辺に鉄に関する遺物が発見されるかもしれません。



(新編武蔵風土記稿に描かれた王禅寺)

### 川崎市内歴史情報

#### 下原遺跡から縄文後期・晩期の

#### 出土土器に稲作の痕跡 5月15日 神奈川新聞

多摩区长尾の下原遺跡より出土した縄文後期～晩期の土器の成分から稲の葉などに含まれるガラス成分であるプラントオパールが検出されました。市教委は「縄文晩期の土器から検出されるのは県内で初。稲が身近にあったと考えられる」と話しています

また、新潟産のヒスイを用いた玉類や青森周辺で作られた様式の土器等も出土した。



(出土した土器)

出土品の一部は、市民ミュージアムの展示室で8月29日まで展示公開されます。



(出土したヒスイ製玉類)

問い合わせ 044-754-4500

#### 武蔵国橘樹郡

#### 郡衙(役所)解明進む 5月10日 神奈川新聞

1996年高津区千年に橘樹郡衙(くなが)の正倉(郷社敷)ではないかと思われる建物跡が発見されて以来、郡衙の位置が高津区橘地区周辺にあったことを推測させる発見が相次いでいる。

橘郡の実像を知る大きな手掛かりとなるものが740年聖武天皇の命で行基が建立したといわれる影向寺である。発掘調査の結果、それより前の7世紀後半の白鳳時代のものとされた。発見された瓦から同寺が橘樹郡の公式な寺であったという可能性が高いという。



(野川神明社南遺跡発掘現場)

### 郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

このような史料はありませんが

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「明細帳」・「五人組帳」・「絵図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」・「新聞」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鍬」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。